

SHANNON LLC | AI AGENT DEVELOPMENT

AIエージェント開発

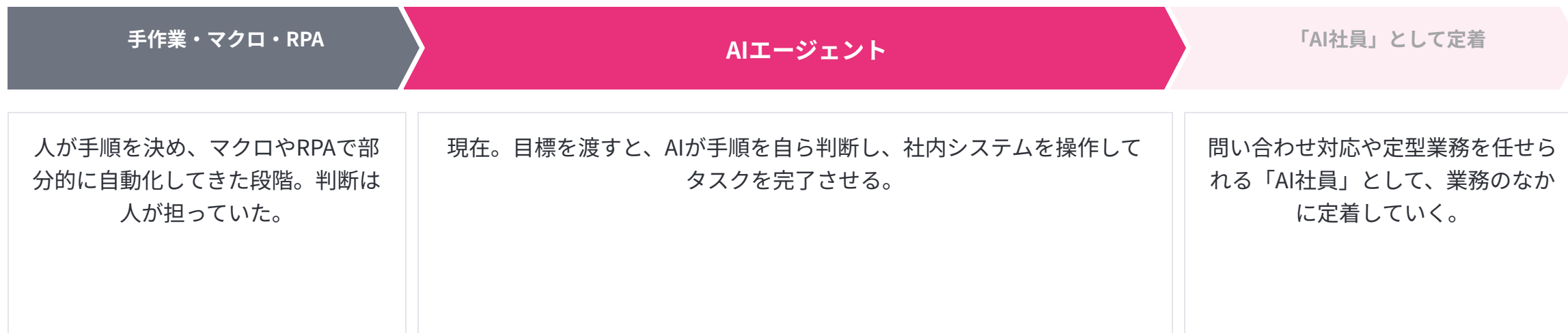
サービス資料

業務をこなすAIを、本番で動く形にする。目標を与えれば自律的にタスクをこなすAIエージェントを、デモ止まりにせず、実運用に耐える形まで設計・実装します。



業務をこなすAIエージェントの需要が、急速に高まっています

目標を与えれば、人手を介さず自律的にタスクをこなす。そんなAIエージェントを業務へ組み込む動きが、いま急速に広がっています。



AIエージェントに任せられる代表的な業務

- **問い合わせ対応**：社内外からの質問に、社内情報を参照して回答・一次対応する
- **文書検索・要約**：大量の資料から必要な情報を探し、要点を整理して提示する
- **定型業務の自動化**：申請処理やデータ入力などの繰り返し作業を代行する

※ AIエージェント＝目標を与えると、必要な手順を自ら判断して実行するAI。生成AI（LLM）を中核に、社内システムと連携して動作します。

2026年、AIエージェント開発は外注の最大成長分野の一つ。「AI社員」に業務を任せる動きが、実証から本格導入へと移りつつあります。

つまづくのは「作ること」より「業務に載せきること」です

多くの場合、技術的に作ることより、業務に定着させ本番で使い続けることのほうが難所になります。



デモ止まりで使われない

デモは動くのに、現場では使われず定着しない。実データや例外への対応が甘く、日常業務に載せきれないまま止まってしまう。



安全に社内データを扱えるか

社内データを扱わせる際の権限や監査の設計が難しい。誰が・どこまで・何を参照できるかを詰めきれず、導入に踏み切れない。



どの業務から始めるか

効果が出る業務の見極めがつかず、着手できない。対象を欲張ると精度も評価も曖昧になり、成果が出ないまま終わりやすい。



特定モデルへの依存が不安

特定のAIモデルに固定すると、価格改定や提供終了、性能の頭打ちのたびに作り直しのリスクを抱え続けることになる。



精度が完璧でない前提

AIの回答は完璧にはならない。その前提で、誤りに気づき・止め・直す仕組みまで含めて業務へ組み込む必要がある。



効果と費用の見通し

いくらかけて、どれだけ効果が出るのか見通しづらい。いきなり本番規模で投資すると、成果が読めないまま費用が膨らむ。

※ RPA＝定型操作を自動実行するツール。LLM＝大規模言語モデル。本資料では生成AI／LLMを中核としたエージェントを対象にしています。

作れるかどうかではなく、業務に載せきれるかどうか。次ページから、この難所を越えるためのサービス構成をご説明します。

自律実行・安全な接続・社内検索・運用改善の4本柱で支えます

AIエージェントを本番で動かすために必要な4つの領域を、開発から運用まで一貫してご提供します。



AIエージェント開発

AGENT

目標に対して取るべき手順をAI自身が判断し、タスクを最後まで実行するエージェントを開発します。重要な操作は必ず人が承認してから動かす設計にします。

- ・自律的なタスク実行の設計
- ・ヒューマンインザループ設計
- ・失敗時の停止・やり直し
- ・対象業務に合わせた実装

重要操作は人の承認を挟む前提で設計します。



MCPで既存接続

CONNECT

MCPを介して社内DB・グループウェア・SaaSに安全に接続します。誰が・どこまで参照や操作できるかの権限を定め、操作の監査までを担保します。

- ・社内DB・SaaSへの安全接続
- ・権限・アクセス範囲の設計
- ・操作ログによる監査担保
- ・既存資産を活かした連携

MCP=AIと外部システムをつなぐ標準規格です。



社内データ検索RAG

RAG

社内文書を検索し、根拠を示しながら回答するRAGを構築します。出典を明示し、答えられない問いは誤魔化さず正直に切り分ける設計にします。

- ・社内文書の検索・回答
- ・出典・引用元の明示
- ・誤りや不確実さの検知
- ・最新情報への更新反映

RAG=社内情報を参照して回答させる仕組みです。



精度監視・運用改善

MONITOR

本番稼働後も精度を継続的に監視し、改善を回し続けます。特定モデルに固定せず、より良い選択肢へいつでも差し替えられる構成にします。

- ・精度・誤答の継続監視
- ・モデル非固定・差し替え可
- ・フィードバックでの改善
- ・横展開に向けた型化

モデル差し替えに耐える構成で依存を避けます。

最大の失敗は「PoC止まり」。本番に載せる前提で設計します

よくある失敗と当社の進め方の比較。分かれ目は、本番運用を最初から見据えて設計しているかどうかです。

よくある失敗：PoCで終わってしまう

PoC・デモ制作
限定環境で試作する

>

デモは動く
見栄えは良く見える

>

本番で頓挫
現場に載せられない

- × 精度の合格ラインが曖昧で、良し悪しを判断できない
- × 既存システムに繋がっておらず、実データで動かない
- × 誤りに誰が気づき直すかが決まっていない
- × 作った担当と運用の担当が分かれ、引き継げない

※ 検証が「動くか」で止まり、「業務で使えるか」まで踏み込めていないのが典型的な失敗の構造。デモの完成がゴールになってしまう。

当社の進め方：本番に載せる3原則

合格ラインを定義
先に判断基準を置く

>

既存システムに接続
実データで検証する

>

責任設計で運用
直す人まで決める

- ✓ 精度の合格ラインを、着手前に数値で決めておく
- ✓ 既存システムに繋ぎ、実データ・実業務で検証する
- ✓ 誰が間違いに気づき、止め、直すかを設計する
- ✓ PoCから運用まで、同じチームで一気通貫に伴走する

※ 「作れるか」ではなく「業務で使い続けられるか」を検証の基準に置き、そのまま本番へ引き継げる形でPoCを進めます。

PoCを「本番の入口」に置く

PoC止まりを避ける鍵は、合格ライン・既存システム接続・責任設計を先に決めること。次ページで、なぜ当社がそれを担えるかをご説明します。

自社SaaSでAI駆動開発とMCPを日常的に実践しています

私たちはAIエージェントを「作って売る」だけでなく、自社サービスの開発運営で日々使い、運用しています。



自社プロダクトで実践

規程ログ・警備サインなど自社SaaSの開発運営で、AI駆動開発とMCPを日常的に使っています。



デモで終わらせない

合格ラインの設定・既存システム接続・責任設計まで、実運用に耐える形まで伴走します。



生成AI前提の開発

設計・コード生成・レビューに生成AIを組み込んだ開発スタイルで、速く確実に形にします。



運用まで同じチーム

PoCから本番実装・精度監視・改善まで、担当を分断せず一貫通貫でお引き受けします。

2本

自社SaaSを運営
規程ログ・警備サイン

MCP

を日常的に活用
社内システム連携で実運用

1チーム

PoC～運用まで一貫
担当を分断しない体制

デモを作る会社ではなく、AIを日常業務として運用している開発会社です。だからこそ、本番で動く形まで責任を持って伴走できます。

対象業務の選定から運用・横展開まで、4ステップで進めます

まず効果の出やすい1業務に絞り、PoCで確かめてから本番へ。段階を踏むことで投資を確実にします。

01



対象業務の選定

効果が出やすく、正解データのある1業務から始めます。最初に狙う対象と一緒に絞り込みます。

02



PoC（2～4週間）

実データで精度と業務適合を、先に決めた合格基準に照らして判断します。進む・直す・やめるを見極めます。

03



本番実装

既存システムへの接続・権限設計・監視を作り込み、実運用に耐える形で業務へ載せます。

04



運用・拡大

精度を監視しながら改善を続け、成果の出た型を他の業務へ横展開していきます。

業務選定 → PoCで検証 → 本番実装 → 運用・横展開（まずは1業務から）

いきなり全社ではなく、1業務での成功を型にして広げます。PoCで得た知見や実装は、そのまま本番・横展開へ引き継げます。

※ 料金は対象業務・接続先・権限要件の確定後に書面でご提示します。最初の30～60分のオンライン相談は無料です。

発注前に、この4点を整理しておくスムーズです

次の4点が定まっているほど、PoCの精度が上がり、判断も早くなります。曖昧な段階のご相談でも構いません。



対象業務を1つに絞る

効果が見えやすく、日々繰り返している業務を1つ選びます。範囲を欲張らないほど精度も評価も明確になり、成果の判断がしやすくなります。



正解データがあるか

その業務に「正しい答え」の記録や過去事例があるほど、AIの精度を数値で測れます。まだ無い場合も、何を正解とみなすかを一緒に整理します。



許容できる間違い方

完璧は前提にしません。どの誤りなら許容でき、どの誤りは絶対に避けたいかを決めておく、合格ラインと安全策の設計がぶれずに進みます。



触らせてよいデータ範囲

AIに参照・操作させてよい社内データの範囲を、あらかじめ線引きしておきます。権限と監査の設計が具体化し、安全に本番へ載せやすくなります。

すべて固まっていなくて大丈夫です。この4点を一緒に整理するところから始め、**PoCで確かめながら精度を高めていきます。**

会社概要

社名 シャノン合同会社 (SHANNON LIMITED LIABILITY COMPANY)

代表者 三浦 昌大 (Masahiro Miura)

設立 2026年4月 (決算月：3月)

拠点 東京都豊島区池袋2丁目17-8 / 千葉県柏市若柴178-4 / 北海道札幌市中央区北二条東3丁目2番2号マルタビル8階

資本金／取引銀行 9,900,000円 / 三菱UFJ銀行柏支店

事業内容 プロダクト開発・運営 / インフラ構築・運用 / エンジニアリングエージェンシー

パートナー Xserverビジネスパートナー / Microsoft Cloud Partner Program

連絡先 050-1794-9651 / contact@shannon.co.jp / <https://shannon.co.jp>

3拠点
東京・千葉・札幌

28件
公開実績 (2014年～)

10業種超
対応業種

お問い合わせ：<https://shannon.co.jp/ai-agent/> / 資料ダウンロード：<https://shannon.co.jp/downloads/>



E.O.F

